

田に水が引かれ、草木が潤う六月です。
窓の外で日々濃さを増す緑を楽しみましょう。

デイサービス八重桜 本店

【母に感謝の催し】

母の日です。八重桜本店でも普段の感謝の気持ちをたくさん込めて、母の日のレクリエーションを行いました。女性のご利用者さまお一人ずつ前に登壇いただき、感謝のメッセージを書いた白板をバックに記念撮影。手にはブーケを用意して撮影しました。撮影後お一人ずつ子育などの思い出を話していただき、最後にプレゼントをお渡ししました。前に出て撮影するのが恥ずかしい様子でなかなか皆さま登場されにくかったのですが、写真撮影では飛び切りの明るい笑顔に。また、子育て当時の懐かしい思い出やその頃を思い出しながら語られる顔には、充実感が滲んでいました。普段は恥ずかしくて言えない感謝の気持ちは、誰もが心の奥に持つものです。職員も普段言えない感謝を口に出して伝えてみよう。そう思えた素晴らしいイベントになったと思います。また、母の強さと偉大さを再認識したイベントにもなりました。これからも笑顔いっぱい元気に過ごしていただけ強く願います。



【毎回、楽しみの手作りおやつです】

毎月、ご利用者さまには御好評の手作りおやつ、今月も行いました。しかし以前も少し触れたように、コロナ禍において手作りでの提供が難しいご時世であり、少しでも楽しんでいただけるアイデアをスタッフで考えています。



さて、今回のメニューは「お好み焼き」でした。

おやつと言えば菓子類や甘い物という常識を破るのと、関西名物の食品を提供しようという意図でのメニュー選出となりました。用意している段階から漂うソースの匂いに、ご利用者さまから「おやつ何かな」と期待の声。提供した時には皆さまから驚きの声も漏れていました。おやつということで手のひらサイズでの提供になりましたが、皆さまおいしそうに召し上がられていました。同時

に「もっと大きいのが食べたい」との声も。ソースと粉ものは皆さま好物なようで、今回も大盛況なおやつとなりました。食の楽しみを届けられる手作りおやつ。来月もご利用者さまに笑顔をお届けできるようにアイデアを練っていききたいと思えます。

二〇二五年問題と看護

西 勝康

今までも何度か取り上げてきた二〇二五年問題も今年から団塊の世代の一期目がいよいよ後期高齢者になり始めました。

全国の病院の病床数は一日あたり現時点では二三万床と言われていますが、二〇二五年には全国の入院患者は、一日あたり一三八万人を超えることが予想されており足りません。さらに国の方針では病床数は減らす方向に動いており、二〇二五年には入院が出来ない患者が数万から数十万人も発生する可能性があります。

桜の広場

これを避けれない現実であることに対応して「地域包括ケアシステム」が提唱され準備が急がれているところです。キーワードは「在宅」です。入院入所が量的にも経済的にも困難になっていくなか、要介護高齢者が今まで暮らしてきた地域で自宅で在宅医療、在宅ケアを受けながら生活を続けられる

ようにしようというので「地域包括ケアシステム」です。その為には医療ニーズの高い要介護者への支援を充実させる必要があります。それには看護サービスの導入が不可欠になります。その結果、平成十八年四月に創設された小規模多機能型居宅介護に訪問看護を加えた複合サービスを平成二十四年に看護小規模多機能型居宅介護として創設し、同年に訪問介護を定期巡回・随時対応型訪問介護看護としてここでも看護サービスを各々一体として提供する複合サービスが生まれました。このような経緯を見てわかることは、国は今後地域包括ケアシステムの重要な役割を看護師に期待しているといってもいいでしょう。私たち八重桜も時代の要請と受けとめて、訪問看護ステーションの設立の準備を進めているところですよ。

デイサービス八重桜 朱雀

【母に感謝の気持ちを込めてカーネーションを】



春の日差しがポカポカと少し眠たくなるような季節になりました。世間はゴールデンウィーク真最中ですね。

朱雀館では年に一度の母の日イベントを開催させて頂いていただきました。

朱雀館の女性のご利用者さまに、日頃の感謝を込めて職員手製の真っ赤なカーネーションを作らせていただきました。部屋の壁には花紙で作らせていただいた「お母さんありがとう」の文字と職員一同からのプレゼント共に記念撮影を行いました。

皆さまと母の日に因んだ音楽を歌いました。思わず感動をされ涙を流される方も…。沢山の笑顔と笑い声に包まれた素敵な一日となりました。次は父の日イベントですね。これからも笑顔いっぱい素敵なイベントを一緒にしていきたいと思います。

【おじゃみてピンゴ！ゲームで集中力を】

今年も、もうすぐ半年が過ぎようとしています。気温は朝晩まだ少し冷えますね。さて、朱雀館では身体の体操とちよつとしたリハビリ運動も兼ねたレクリエーションを日々企画していますが、今回は「おじゃみてピンゴ！ゲーム」です。四方形大きな紙を床に設置し、おじゃみを9マスの角に投げていくゲームです。投げるだけだと思えば簡単そうに見えますが中々集中力を必要とするゲームです。思った場所に入らない少しイライラしてしまうゲームです。「なんでそこや」「あーいつでピンゴやったのに」と悔しそうな表情をされる方も…職員も参加させていただきましたが、職員はかなり遠く離れた所からでした。全然ピンゴにならない結果にご利用者さまは大笑いされていました。これからも身体のリハビリを考えた新しいレクリエーションを考案させていただきます。皆さまでまた、笑顔溢れる楽しいレクリエーションをしていきましょつね。



デイサービス八重桜 押熊

【母の日プレゼント】



毎年、母の日にご家族さんからお花が届きます。今年は赤いカーネーション。母の日のプレゼント・ギフトには何をあげるべきかな？

一位：感謝やねぎらい、大好き、などの言葉
二位：手紙・メッセージ
三位：スイーツ

今年のトレンドは、以上のようになっているようです。どれもとっても嬉しいものです。皆さまは、何を渡しましたか？押熊館の皆さまには、定番かもしれま

せんが、靴下を差し上げました。

「いへつあつても、邪魔にならんから、ありがとうねー。」

とにっこり。そしておやつには、チョコレートとクリームをトッピングした、手作りパンケーキを美味しくいただきました。とても幸せな母の日でした。

【紙コップ積み】

入浴後に毎日使っている、紙コップを使って、積み上げていきます。軽いので、意外と難しいです。上下を合わせながら、交互に重ねていくのですが、コップの縁同士を合わせていくのは、至難の業です。

緊張して、直ぐに倒れてしまうので、悔しいです。でも、心静かに、落ち着いて、高く積み上げることができたときの、達成感は最高です。

「上手く積んだねえー。」「凄いですねー！」「流石やなあー」

ちよつとした、達成感と優越感に浸ることができましょつね。心の中では「エッハーン！」なってます。



デイサービス八重桜 平城

【母の日のお祝いに手作りカーネーションを】



今日五月八日は母の日です。スタッフにとってもお母さまの様な方々への特別な日です。「母さんの歌」のメロディーが流れる中、スタッフがお贈りした一輪のカーネーションを手にした皆さまの涙や笑顔の中に、「お母さん」としてのご自分を思い起こされている様子でした。続いて、色紙を一枚一枚丹念に折って作った花びらやりボンで飾られたボードをバックに、集合記念写真を撮りました。スタッフの「手を挙げてください」の言葉に、カーネーションを持った手が一斉に挙がり、ナイショット！「去年も作ったものと一緒に大切にします。来年、三本になるのが楽しみです」とおっしゃる方もおられ、スタッフも感激です。最後に、家や子を一生懸命守り抜いた妻や母を讃えた戦前の名曲「愛国の花」をスタッフが歌うのを、拍子をとつつ、口ずさみながら、聴き入っておられました。一輪の花、一曲の歌を通じて、皆さまとスタッフが信頼を分かち合うことが出来ました。

【風船パレーと卓上玉転がして運動を】

風船パレーと卓上玉転がしの同時進行で、腕や手首を動かしながら、集中力の養成です。まず宙に舞った風船が自分の前に降りて来た所を手で、「パチっ」と叩いて、お隣の方にパスします。「ホッと」する間もなく、こんどはテーブルの上を大きなボールが転がって来て、斜め向かいの方へナイスポスです！「ここと思えば、またあちら！牛若丸の様に、風船もボールも、いつ来るかわからないので、油断が出来ません。しばらくすると、皆さまの手が「風船を叩いてボールを転がす」というテンポにリズム感が出て、こちらにパスするが見極める余裕が出て来る方々もおられました。「叩く」「転がす」の連続動作は、手首や腕の動きを活発にするだけでなく、風船やボールの動きに目を離さないための集中力、自分の所に来た時に即対応する機敏性、二つ以上の事を同時に行う柔軟性の向上にも役立ちます。真剣さと楽しさの同時進行で、心身共にリフレッシュのひとときでした。



デイサービス八重桜 西奈良

【母の日に皆さまと一緒に...】



一年のうちに、女性入居者が主役となるイベントのうちのひとつが母の日です。そんな母の日にイベントを行いました。今回のメインは「ジェスチャーゲーム」。よくバラエティ番組などでも見掛ける、シンプルなゲームです。職員がジェスチャーをして、入居者の皆さまに解答をしていただきます。職員が二対二に分かれて、どちらのペアが正解数が多いかを競いました。職員も入居者の皆さまも必死でしたが、「またやりたい」との声も多く、好評な企画となったと思います。おやつにはティラミスフォンケキを召し上がっていただき、いつもよりも少し豪華なおやつも大変喜ばれていました。皆さまの中で、記憶に残る楽しい母の日になったのではないのでしょうか。

【鯉のぼりゲーム】

イベントの多い五月。ご利用者さまには、ビニール袋や画用紙で作ったカラフルな鯉のぼりを作っていたいたり、母の日に向けてカーネーションのちぎり絵を作成したりと楽しい時間を過ごしていただいています。また、五月人形も用意し、ご利用者さまから「立派な五月人形やな〜」と注目を浴びていました。

五日は、ごどもの日にちなみ新聞紙で作った鯉のぼりを飛ばすゲームを行いました。大きな鯉のぼりと小さな鯉のぼりを用意し、ご利用者さまには勢いよく飛ばしていただきましたが、思っていたよりも中々飛ばずに垂直に落ちてしまったり、前に飛ばす後ろに下がってしまう鯉のぼりには苦笑い。それでも無我夢中で鯉のぼりを飛ばすご利用者さまの目はキラキラ輝いていました。



訪問看護ステーション開設

西原 理辺架



「八重桜訪問看護ステーションぷらす」の開設に合わせて入職させていただきました看護師の西原です。今までは特別養護老人ホームや老人保健施設、ショートステイ、訪問入浴、訪問看護ステーションの立ち上げ等に携わってきました。新しく始まる八重桜訪問看護ステーションぷらすに心機一転して勤めさせていただきます。気持ちの引き締まる思いで毎日を過ごしています。

八重桜訪問看護ステーションぷらすでは認知症やその他、心身の不調を予防する訪問看護、リハビリに取り組んでいます。

病気の予防には一次予防から三次予防まであり、一次予防は病気になること自体の予防、二次予防は早期発見・早期治療による重症化の予防、三次予防は病気の再発予防にあたります。ご利用者さま様の状態に合わせて訪問看護の手札を増やし、ご利用者さま様の生活に安心を「ぷらす」出来る訪問看護を提供していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

俳句教室発表句

(敬称を略します)

母さんの 言葉に叱られ 愛子泣く

西川 愛子

お母さん思い出すね

垣根越し 卵の花におう 夏めく日

森岡 栄子

初夏の香りがしてきそうすね

コロナ下 天を仰ぎて 鯉のぼり

大城 聖三

コロナに負けず泳ぐ姿が目には浮かびます

目覚めると 紫陽花の花 こんには

政後 三美子

紫陽花は本当にキレイですよ

父の日の わが子の便りに 涙する

田中 鶴太郎

お手紙っていいですね

ゲロゲロゲ カエルの合唱 梅雨入りだ

明星 明子

泣くときみんなで鳴いてピタッと止まるのは面白いですね

こいのぼり あちらこちらに さそわれて

倉司 寿代

たくさんのお魚のぼり良いですね

かさねごし 卵の花におう 夏めく日

森岡 栄子

夏が待ち遠しいですね



八重の家通信 21 音楽療法の導入

西裕聖子

去る五月二〇日、日本ヘルマンハープ振興会 梶原千沙都会長を招聘し『八重の家ヘルマンハープコンサート』を開催いたしました。

ヘルマンハープはドイツ・バイエルン州の農場主であるヘルマン・フェー氏がダウン症の息子のために一九八七年に開発された弦楽器です。フェー氏は、音楽をこよなく愛する息子のために、メロディを奏でられる楽器を弾かせてあげたいと専門家のアドバイスを得ながら試作を重ね、実に十年近くの年月を経てその夢を実現させました。そしてその夢の実現はこれまでに類例のない「バリアフリー楽器」が生まれた瞬間ともいえます。

子を想う親の愛が創りあげたこの楽器は、「バリアフリー」の言葉のとおり、小さなお子さんから年齢を重ねた方、お体の不自由な方、また弦楽器に触れることが初めての方も容易に楽しく演奏することができます。その理由はヘルマンハープの特筆すべき奏法にあります。まず専用の楽譜を楽器本体の表板と弦の間に差し込み、次に楽譜に記された音符の玉を上から下へと弾くことにより五線譜が読めなくてもメロディを奏でることができるのです。

この度、八重桜は音楽療法の一環としてヘルマンハープを導入いたしました。

誰かとともにメロディを奏でる、そしてその音色が誰かの心を包み込む。ヘルマンハープを通じて、フェー氏が描いた優しさのバトンを皆さまとともにたくさんの方々に繋いでいけたら嬉しく思います。

馳せ走る 食の匠のひとりごと

西勝康

発酵食品

今年も梅雨の季節が来ました。

この時期になると食品が傷み易くなるので、普段よりなお一層食品の管理には気を使います。有害な細菌は食中毒を引き起こす原因になります。一方、乳酸菌や麹菌などは人間に

とって有益な物質を造り出す「発酵」という現象を起こします。

例えば、牛乳に乳酸菌を加えることでヨーグルトが出来ます。味噌やチーズもまた発酵の過程を経て温度や湿度が管理された状態で熟成されることで、様々な風味のものが出来ます。

「発酵」と「腐敗」は紙一重ですね。

遊歩道のこころ

究極の目的はすべての病人を 家庭で看護することである

イギリスの看護婦 看護教育学者

ナイチンゲール